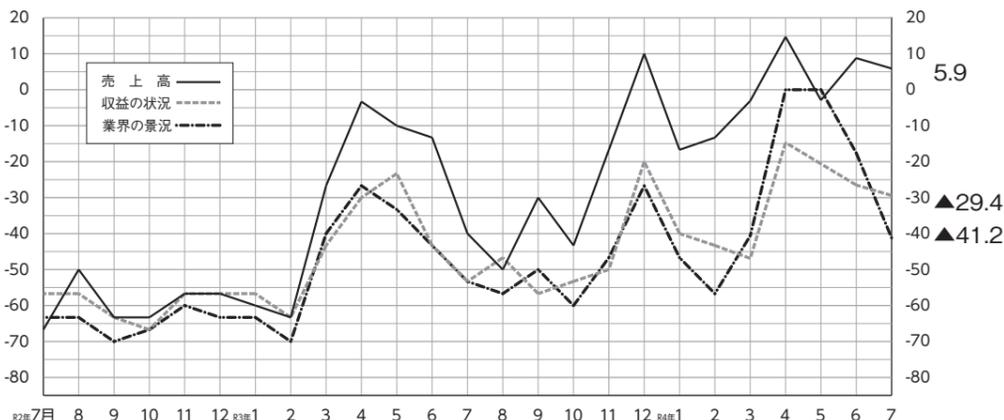




DI(景気動向指数)

情報連絡員報告



なし

	食品団地	8月度商況は、昨年と比べやや好転。しかし収益状況はやや悪化。原因はエネルギー価格の高騰に食品原材料、副資材等の値上がり影響している。商品の値上げで対応せざるを得ない状況。
	商店街(四万十市)	夏休みになり、県外からの往来は増えた。観光客だけでなく、多くの業種で出張も再開している。
	旅館・ホテル	7月以降は新型コロナウイルス再拡大の影響を受け、団体客を中心にキャンセルも発生。インターハイの受け入れもあるが、売上高の最大化が困難で、施設により客単価が低下する側面もある。慢性的な人員不足で人的マネージメントが困難。最低賃金の上昇、エネルギーのコストアップ等収益構造が揺らぐ状況が続く。
	クリーニング	クリーニング価格の改定は広がってきているが、資材などの価格上昇が相次ぐため十分ではない。全体として売り上げは回復傾向にあるが、経費がそれ以上に膨らみ、粗利益は減少傾向にある。行動制限がなくなり、ホテルリネン、外出着などの需要は回復傾向にある。

	木製品素材生産	丸太価格は前月より少し下がってきているが、依然高値で推移している。出材量も順調であるが天候次第で影響が出てくる。
	製材	荷動きは全般的に低調であるとの声が聞かれた。
	刃物製造	4月・5月は売上は低迷していたが、6月後半より7月の売上が上昇し、マイナスを取り返すことができた。
	機械団地	原材料や電力価格の高騰は続いており、一部に売上や収益等を落としている事業所がある。団地内は概ね前年並みの業況で推移している。
	船舶製造	仕入価格のさらなる上昇や仕入材料(電気部品類)が入手困難となる不安がある。
	珊瑚装飾品製造	7月の取引額は前年同月比85%と、回復の兆しが見えない。
	生鮮魚介卸売	カツオ・マグロの入荷が少ない。少し伸びていた居酒屋関連が、新型コロナウイルスでまた少し困っている。
	各種小売(土佐市)	少し新型コロナウイルスも落ち着いたかと思われたが...商店街・小売店に元気が無く、活気が無い。この状態がいつまで続くのか頭を悩ませている。
	中古自動車小売	慢性的な在庫不足、相場高騰により厳しい状況が続いており、近県から全国まで仕入れ先の範囲が広がっているが、経費等は販売価格に転嫁できないのが現状。オプション品等での客単価UPを図っているが、商品によっては、納期が定まらないのでなかなか難しい。
	商店街(高知市)	中央公園地下駐車場の利用状況 売上:前年比117.5%、利用台数:前年比115.0%。7月2日からスタートした土曜夜市は、第4週まで通年以上の人出で賑わいを見せたが、コロナウイルス感染の拡大に伴い最終日は通年の8割に留まった。

	IT事業	特に大きな動きは感じられないが、海外のサーバーの利用費用が円安の影響を受け、若干上がっている。その他、原価が徐々に上がってきていることもあり、値上げ傾向にある。
	一般土木建築工事	令和4年7月分の公共土木用生コン出荷量は、前月比90.3%、前年同月比71.7%。令和4年4月から令和4年7月累計においては前年同月累計比87.2%の水準。7月の公共工事請負金額は前年同月比で72.9%、前年対比累計では72.7%。令和4年7月末時点の発注者別前年対比累計では、国:74.3%、高知県51.3%、市町村107.8%と国・県共に大幅減となっている。災害復旧工事、防災・減災対策工事、高速道路の延伸工事などの大型工事は継続している。生コンクリート単価については、引き続き値上げ交渉を行うことと共販率上昇に向けた取り組みを連合会主体に行っていく。

	酒類製造	新型コロナウイルス感染状況悪化の影響か?出荷量は順調に回復傾向であったがやや鈍化。燃料費等の上昇による、低温保管に係る経費の増加で厳しい状況である。
	テントシート	イベント関連の受注が回復基調だが、まだまだ新型コロナウイルスの影響が続いている。
	製紙(家庭紙)	近年にないパルプ価格上昇と重油、電力、資材類、運賃、その他、諸々の値上げが続き、価格転嫁が追い付かない状況である。
	製紙(手すき和紙)	新型コロナウイルス感染症の爆発的な感染に加え、原材料の高騰が高止まり、加えて円安と何かと良いことがなく、経済を回すと対策をしないままの状態、経済も回らなくなっている。今後さらにどうなるか不安でいっぱいである。
	印刷	売上、操業度共に昨対は若干アップ。県内官公需、民需はインターハイ関連、商品券等の特需もありません。又県外需要もイベント等の回復もあり良い傾向。但し一部の業者の好調が全体をカバーしているが、業界全体は厳しい。新型コロナウイルス前と比較すると80%程度か。原材料及び電力料金等の高騰もあり厳しい状況に変わりはない。
	生コンクリート製造	7月の出荷数量は、対前年比71.7%で6月に引き続き減少している。地域的には東部・嶺北での減少幅が大きい。価格に関してはセメント等の原材料価格の値上がりが計画されており、今後の課題である。
	コンクリート製品	出荷数量は前年同月より減少。令和元年5月からの西日本豪雨による災害復旧工事により増加は続いていたが、令和2年7月以降より増減を繰り返し、令和4年7月分は前年同月より減少した。
	卸団地	・高知市中心部の外食は動きの悪い状況が続いているが、四万十方面等の観光の動きは活発になってきている。今後は、新型コロナウイルスの状況が心配だが...新型コロナウイルス禍の続く中、ウクライナ・ロシア戦の影響で原料高騰しているため、収益を圧迫している。
	青果卸売	まだまだ続く新型コロナウイルスの影響で業務系の悪化は必然的である。
	電気機械器具小売	全商品平均で前年比87.2%。特にエアコンが前年比74%で大変厳しい。
	商店街(安芸市)	8月20日(土)開催予定の商い甲子園の開催に向けて、準備を進めている。
	飲食店	前月と比べ売り上げは微増、前年同月では同程度。例年(新型コロナウイルス禍以前)との比較は6~7割程度。業態により売り上げに大きな差がある。県外客は増加、県内客は減少。光熱費や仕入れ価格の高騰がさらに拡大、新型コロナウイルス感染者数も激増し集客は減少、売り上げの低下などマイナス要因には事欠かない状態が続く。今後、業界(県内事業主)の規模が縮小することが危惧される。
	旅行業	組合クーポン売上、前年同月対比4倍、全旅クーポンを加味して9倍。令和元年度売上比較、約50%。
	電気工事	組合員の施工する電力引込線工事は、前年同月比113.7%となった。高知中央・安芸・室戸地区が増加した。
	一般貨物自動車運送	荷動きは業種によっては7月選挙が終わった頃から少しずつ動き始めたように思うが、昨年同時期と比べると少ないと感じる。燃料価格も高値で推移しており経営は厳しい状況が続いている。

	建具	仕事が少ない。新型コロナウイルスの影響では、ワクチン3回目の接種証明書がないといけななど現場に簡単に入れなくなっている。
	ガソリンスタンド	政府による燃料油価格激変緩和と事業発動の補助金額は7月末で1リットル当たり39円に達しており、また、ロシアのウクライナ侵攻も継続しており、ここに来て、新型コロナウイルスも再び感染拡大しているが今のところ規制がないため、経済は少し動いているようであるが、原油価格の乱高下は続いておりスタンドは対応に困惑している。
	タクシー	実働1日1車当たりの前年同月比営業収入:131.3%、輸送回数:118.8%、実働率は52.1%。少しずつ利用者に戻ってきたようだと思われたが、新型コロナウイルス感染第7波の勢いが強く、又々利用客の減少、運転者不足、燃料費の高騰と厳しい経営、非常事態に陥っている。